

総括コメント



(一財) 日本エネルギー経済研究所常務理事 首席研究員
小山 堅

本日は非常に中身の濃い充実した議論であったし、さまざまな情報や意見を聞くことができ、大成功であったと思う。

午前中の議論で印象に残ったのは、今、日本とロシアの間がまさにダイナミックに動きつつあることである。それは、ソチ、ウラジオストク的首脳会談、これから山口で行われる首脳会談を踏まえ、日本とロシアの関係に新しい展開が出てくる、そういう大きな期待の中でこの「対話」が行われたということだ。言うまでもなく、エネルギーは8つの協力プランの1つであるが、おそらくその協力プランの重要なコアであろうという大きな議論があった。この議論を踏まえて2つセッションがあった。

セッションAでは、石油、ガス、石炭など化石燃料、そして、セッションBでは環境と再エネ、省エネといった非化石エネルギーについて主に議論が行われた。日ロ双方の立場から、さまざまな期待とさまざまな課題が取り上げられた。どのスピーカーから話があった分野でも、日ロあるいは広くアジアの問題を考えれば、これから先、十分な協力の可能性とその未来があると感じた。同時に、その大きな期待を実現するためには我々は何をしなければいけないか、ということもこの対話の場で提示されたと思う。

大きな期待、やるべきことをどう実現するかということは重要な問題となる。実現のために私が感じたのは、一つは政策的な取り組み、政策的な支援の重要性である。エネルギーの問題は、エネルギーのセキュリティ、環境の問題に直結する。こうした問題はいわゆる外部性に関わり、二国間の協力はまさに国際的な関係、国際政治の世界でもある。その意味では、日ロ両国政府のしっかりした支援が、多様な協力を実現していく上で、まさに鍵になると思う。

同時に、この協力を実現していく現実のプレイヤーは、民間のプレイヤーであったり、消費者であったり、我々一般の

人間ということになる。これを実際のものとしていくために次に大事になるのは、経済合理性をどのように担保していくのかということだと思う。本日の対話の中では再三、市場の自由化や競争ということも指摘された。そうした市場環境の中で合理性をしっかりと追求していく、逆に言うと政策支援の中で経済合理性をどう高めるのか、ということもこれから大変重要になってくると感じている。

この協力を進めていく上では、日ロ双方の相互理解をより深めていく、より高めていくことが決定的に大切である。ロシア側は何を欲しているのか、日本側は何が重要なのか、ということがお互いによく分かることが大事だと思う。セッションAの質疑応答で、例えばガスの問題について、日本はいったいロシアにどうしてほしいのか、というような質問があり、回答があった。相手側が何を必要としていて、それにどう対応するのかということを考える「相互理解」が重要なキーワードになる。

この相互理解という観点では、第9回という回数を重ねてきた日露エネルギー・環境対話といったプラットフォームが果たす役割は決定的に大切である。9回目になると、その時々日ロの協力に対する期待やうねりがあったと思う。その中で、これを続けてきていることがまさに大きな貢献だと思う。この新潟の地で「エネルギー・環境対話」が続いており、日ロ両国間の相互理解やエネルギー協力を促進する重要な役割を果たしており、これからも果すことを期待したい。

この対話から新潟に直接、エネルギーや環境で大きなベネフィットがあるかということは分からない。大きなベネフィットがあることを期待しているが、それ以上に、結果として日ロ間の交流や協力が全体として促進され、それがエネルギーだけではなく、経済、人などの大きな交流の重要なステップや起爆剤になるのではないかと考えている。